

奥州市、奥州商工会議所、前沢商工会、水沢信用金庫と 地域イノベーション研究センターとの5者間連携協力協定締結 ～地域中核企業の人材育成と奥州市地域経済の活性化に向けて～

経済学研究科地域イノベーション研究センターでは、2月17日（木）に奥州市、奥州商工会議所、前沢商工会、水沢信用金庫と連携協力協定を締結いたしました。

この連携協力協定の目的は、地域イノベーション研究センターが有する研究成果や人材育成プログラムを活用し連携協力することで、地域中核企業の人材育成と奥州市とその周辺地域産業の活性化を図ることです。主な連携事業は、①若手経営者等の育成、②中小企業の経営改善及び事業イノベーションの促進、③地域活性化に関する調査研究、④地域イノベーション研究センターが実施する地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）¹⁾への斡旋及び授業料の一部補助等です。

今後、本協定に基づき、地域中小企業の事業イノベーション促進による地域活性化のための取組を行って参ります。

【2月17日に行われた連携協力協定調印式の様子】



1) 地域イノベーションプロデューサー塾 (RIPS)

経済学研究科地域イノベーション研究センターが2012年度から実施している地域企業、特に中小企業の経営人材を対象に、革新的な新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的なプロデューサーを育成する塾。地域金融機関の職員等の支援者を対象とした「地域イノベーションアドバイザー塾 (RIAS)²⁾」の塾生との共同学習を行っている。2021年度までに280名が卒塾し、新事業等に取り組むことで収益力の強化、雇用創出等大きな成果を挙げている。

2) 地域イノベーションアドバイザー塾 (RIAS)

経済学研究科地域イノベーション研究センターが2015年度から実施している地域金融機関等の職員を対象とした、革新的な事業に対する高度な目利き力と支援力を養成する塾。2021年度までに179名の卒塾生を輩出している。